

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300129		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	高知県安芸市川北甲3731番地		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、山や農地に囲まれた静かな高台にあり、入居様が安心して快適な田舎暮らしができる環境が整っている。入居様は散歩やドライブ、地域の行事を通じて、地域の方と顔馴染みの関係を築かれたり、保育園児や小中学生とのふれ合いや併設施設の利用者と交流するほか、自身でできることを生きがいとして役割を担い、花や野菜を栽培されたり、音楽療法やボランティアとの交流を楽しみながら、ゆったりと過ごしている。また、法人施設全体が災害時における地域の避難所として指定を受けている。退居後も必要に応じて法人が運営している介護保険施設等の利用ができるよう、バックアップ体制も整っており、入居様に安心な暮らしを提供できるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3970300129-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年8月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景を眺望できる高台の広い敷地に、母体法人の養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスなどの施設が併設された総合福祉ゾーンのなかにある。利用者は地域の夏祭りや保育園行事に参加したり、散歩やドライブ、買い物、音楽療法、花や野菜の栽培など、自分でできることを日々楽しんでいる。職員は常に利用者の思いや希望を把握することに努めるとともに、2ユニットで力を合わせて食事、入浴、行事などを一緒に行い、利用者同士や職員それぞれが協力し合いながら暮らしている。市の担当者とも日頃から連絡を取り合い、事業所が地域の社会資源として役立つよう入居に関する相談や体験学習の受け入れ、防災等における地域の人々との連携を積極的に行っている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時や異動してきた職員に対しても、理念を説明し理解させた上で書面にて交付している。 また、職員会でも理念について話しあい、活かせるよう取り組んでいる。	地域とのつながりや利用者を大切にする事業所の理念を作成しており、職員の採用時や異動による転入時には説明のうえ理念を書面で渡している。また、職員会では理念に基づく話し合いを行い、意識付けをして日々のサービスに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以前からあった施設に併設してできた事業所ということもあり、地域には定着しており行事や清掃活動、ボランティアの受け入れ、防災訓練などを通じて積極的に交流が図れている。	地域の清掃活動、マラソン大会、夏祭り、保育園の行事などに事業所として積極的に参加している。入居者の友達から花や野菜の差し入れがあったり、民生委員からも野菜の差し入れやうどんづくりなどの協力があり地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、高齢者との交流や福祉体験ができるように実習生の受け入れも毎年行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を活かして、入居者様や御家族様の皆様に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生委員、地域代表を招き、防災についての地域との連携や、行事への参加について話し合っている。	運営推進会議では事業所から活動報告を行い、入居者や家族、地域や市の代表者の意見を聞いている。地域の行事へ参加する話し合いや、防災訓練についての協議等が行われ、評価制度に基づく目標達成計画の経過についても報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主となって行っている介護保険サービス事業所の交流会や運営推進会をきっかけに、連携が密に図れるようになり、小さな事でも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認を取るなどし、サービスの向上につなげている。	運営推進会議で助言をもらったり、市主宰の介護保険サービス事業所の交流会に参加することで、市の担当者と気軽に相談ができる関係が築かれており、運営上の連携が密に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で話し合いを行い、身体拘束をしない尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。日中は玄関のカギをかける、自由な暮らしができるよう見守りを中心に支援している。	母体法人が開催する身体拘束に関する研修会に参加し、研修内容について職員会で話し合っている。日中は玄関の施錠はせず、外出する利用者には職員が付き添い見守っている。言葉による拘束が見られた時は、その都度話し合い改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で事例を用いて話し合いを行い、虐待のない尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明し情報提供している。また、事業所内で対象者がいないか検討したり、活用できるよう知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ていただきながら十分に納得がいくように説明し、同意を得ている。また、改定時にも同様に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情や要望がないか確認し、また、御家族様だけで話し合う場も設けている。苦情は、事業所にとっての宝と考え、改善するように取り組んでおり、出た問題は、職員会、運営推進会でも取り上げて話し合いをしている。	運営推進会議に利用者及び家族の代表が出席して意見を述べている。家族会は年4回、行事に合わせて行っている。家族会では家族だけで話し合う場を設け要望を聞くことにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	毎日のミーティングでの話し合いや毎週金曜日の職員会において、職員間で意見を出し合い、行事の企画や業務の改善に反映している。話し合いの機会が多く、職員が意見を出しやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に合わせた指導や自己能力開発に繋がるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け職員会等で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け受講できるように取り組み、また、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開き資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。又、市が主となって行っているグループホームの情報交換会やケアマネ定例会に参加し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人と一緒に見学に来ていただき、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握し、気軽に相談できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある方については、法人内・外と連絡調整し、入所できるように迅速な対応をしている。また、市町村にも困っている方の相談受け入れをしていただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有できるように配慮し、普段から入居者様に教えてもらう場面が多くあり、お互いに助け合い、協働しながら生活できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と良く話し、コミュニケーションを積極的に図り、入居者様が体調不良などで心細い時は連絡を取り、訪問してもらい、お互いに助け合える関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に訪問していただいたり、自宅周辺へドライブや買い物に出かけている。また、地域の行事に参加しに行く等して、継続的な交流ができるように働きかけている。	利用者5人ほどに定期的に友人の訪問があり、来訪しやすい雰囲気づくりを心がけている。利用者の希望に沿って、行きつけの美容院やよく行っていた商店等に出かけている。また、馴染みの人と交流する機会を得るため、地域の行事に参加している。ただ、家族の協力があまり得られていない。	利用者の馴染みの人や場所との関係が今後とも継続できるように、家族との協力関係がより深まるような取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できない所は、できる人が補いお互いに協力し合って生活できるように、重度者と軽度者を分けずに、一緒に過ごせる環境や場面造りを行い、最近では、お茶やご飯を入れてあげたり、手を握って話をするなど支え合って生活ができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様から次の施設入居等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。又、お亡くなりになった時には、葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の方に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することにより、日々の行動や表情、言葉などから汲み取り把握できるように努めている。	利用者の思いや暮らしの希望について会話しながら日々把握に努め、把握した希望が実現できるように取り組んでいる。利用者の誕生日には、特に詳しく希望を聞いて反映する取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族様との会話の中から情報を聴き、得るように努めている。又、これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人のできること、解かる力に注目するようにし、その力を維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族様との関わりの中で、思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映している。	利用者や家族の意見、要望を聞き、3カ月毎に職員全員でカンファレンスを行って介護計画を作成している。介護計画は面会時に家族に説明し、面会できない家族には送付して了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや会話などを個人記録に記載し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、御本人や御家族様が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、自主防災や市町村などと協力しながら行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。	入居時に利用者、家族と話し合い、同意を得て協力医をかかりつけ医にしている。協力医から月2回の往診を受けるとともに、利用者、家族が希望するその他の医療機関への受診は職員が対応して受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内に看護師がいるので小さいことも、気軽に相談できており、医療機関との連携も密にとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など入居時や状態変化のある度に話している。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。	入居時に重度化への対応指針の説明を行い、利用者の状態の変化に応じて家族と話し合いながら、医療機関との連携のもとに対応している。看取りに関するマニュアルも作成し、事業所で受け入れできる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身につけたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会のメンバーに、キセキレイの里の防災委員長を加え、民生委員から防災についての助言や、部落長と情報交換を行い、協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て、緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域住民参加型の防災訓練にも参加している。	運営推進会議で、防災対策や避難について話し合い、地域との協力体制を築いている。地域住民に参加を呼びかけ、事業所の避難訓練を計画中であり、職員は地域の防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないように話し合い、徹底を図っている。	利用者一人ひとりの尊厳とプライバシー保護について研修会や職員会で話し合い、利用者の日々の行動に注意を払いながら目立たずさりげない言葉かけを行って、利用者の尊厳やプライバシーを守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど自己決定を大切にケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩など個別対応し、入居者様の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、化粧品を一緒に買いに行ったり、美容師の資格を持ったボランティアの方による散髪もできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所や入居者様の友人からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで、食事を楽しんでいる。	両ユニットの利用者が一緒に食事をしている。利用者はテーブル拭きや下膳など自分でできることを手伝っている。食材は配達されるが、近隣から旬の野菜をもらった時などはそれを活かして利用者の希望に沿った献立で調理している。行事の時は職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない方には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談し食の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、嚥下体操などし、ケアに努めている。必要時は、言語聴覚士にも相談して支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症高齢者が失禁することを問題とは捉えていない。ただし、できる限りトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心にも配慮しながらそっと寄り添うケアに心掛けている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの適切な誘導を心がけている。おむつは使用せず、なるべく布パンツを使用するようにして排泄の自立にむけた支援を行っている。リハビリパンツを使用しパッド交換をしている利用者も数人いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハなどで体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけ、自然排泄ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。	朝から夕方まで毎日利用者の好きな時間に自由に入浴してもらうよう職員体制等を調整している。入浴を嫌がる利用者にも、声かけの工夫をし、2日に1回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れない時はお茶等を提供しながら、話を聴き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が副作用などについても理解し、服薬支援ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加やドライブをしたり、個々のニーズに即した外出の支援も行っている。また、遠方への外出は事前に計画し、バスを利用して出かけたりしている。	週1回はドライブや買い物に出かけ、2週間に1回、地域の元気体操や喫茶店へ外出している。地域の行事への参加、バスを利用した外出、敷地内の散歩など様々な外出の機会を作るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理できる方も少数おり、洋服やパンなどの訪問販売を利用している。また、買物時は、本人が支払えるように施設の立て替え金を本人の財布に入れるなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には、書いていただき、御家族様に郵送している。また、電話ができる方は、御家族様に連絡し、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に家具の配置や飾り等のアドバイスをいただき、自分の家だという意識を持っていただけるよう配慮している。	玄関には花の鉢植えが置かれ、生花を活けて季節感を出している。壁には、着物が展示されたり、折り紙や行事計画が貼られて親しみのある空間にしている。居間の中央にはテレビやソファのほか、横になりたい利用者のためベッドも置いて居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置き、仲の良い方同士で過ごせるようにスペースを作り利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様の協力を得ながら、家具や寝具類、写真等を持ってきていただき、本人の好みに応じて居室に飾り、居心地のよさに配慮している。	各居室にはテレビ、持ち込みのカレンダー、家族の写真、花の写真、釣り道具の写真、位牌、衣装ケースなど、利用者それぞれの好みの物が置かれ、居心地の良い居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保しながら自立した生活が送れるように環境など整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時や異動してきた職員に対しても、理念を説明し理解させた上で書面にて交付している。 また、職員会でも理念について話しあい、活かせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以前からあった施設に併設してできた事業所ということもあり、地域には定着しており行事や清掃活動、ボランティアの受け入れ、防災訓練などを通じて積極的に交流が図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、高齢者との交流や福祉体験ができるように実習生の受け入れも毎年行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を活かして、入居者様や御家族様の皆様に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生員、地域代表を招き、防災についての地域との連携や、行事への参加について話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主となって行っている介護保険サービス事業所の交流会や運営推進会をきっかけに、連携が密に図れるようになり、小さな事でも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認を取るなどし、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で話し合いを行い、身体拘束をしない尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。日中は玄関のカギをかけず、自由な暮らしができるよう見守りを中心に支援している。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で事例を用いて話し合いを行い、虐待のない尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明し情報提供している。また、事業所内で対象者がいないか検討したり、活用できるよう知識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>申し込み時や契約時に文書を見ていただきながら十分に納得がいくように説明し、同意を得ている。また、改定時にも同様に説明を行い同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年4回設け、苦情や要望がないか確認し、また、御家族様だけで話し合う場も設けている。苦情は、事業所にとっての宝と考え、改善するように取り組んでおり、出た問題は、職員会、運営推進会でも取り上げて話し合いをしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課表を基に個別面接を行い、能力に合わせた指導や自己能力開発に繋がるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け職員会等で報告している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で多くの研修を設け受講できるように取り組み、また、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開き資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。又、市が主となって行っているグループホームの情報交換会やケアマネ定例会に参加し、情報交換している。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>御本人と一緒に見学に来ていただき、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるように配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握し、気軽に相談できるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性のある方については、法人内・外と連絡調整し、入所できるように迅速な対応をしている。また、市町村にも困っている方の相談受け入れをしていただくように働きかけている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有できるように配慮し、普段から入居者様に教えてもらう場面が多くあり、お互いに助け合い、協働しながら生活できている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>御家族様と良く話し、コミュニケーションを積極的に図り、入居者様が体調不良などで心細い時は連絡を取り、訪問してもらい、お互いに助け合える関係が築けている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人に訪問していただいたり、自宅周辺へドライブや買い物に出かけている。また、地域の行事に参加しに行く等して、継続的な交流ができるように働きかけている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できない所は、できる人が補いお互いに協力し合って生活できるように、重度者と軽度者を分けずに、一緒に過ごせる環境や場面造りを行い、最近では、お茶やご飯を入れてあげたり、手を握って話をするなど支え合って生活ができています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>御家族様から次の施設入居等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。又、お亡くなりになった時には、葬儀に参列している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様の方に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することにより、日々の行動や表情、言葉などから汲み取り把握できるように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>御本人や御家族様との会話の中から情報を聴き、得るように努めている。又、これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるように努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	御本人のできること、解かる力に注目するようにし、その力を維持できるように努めている。		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	御本人や御家族様との関わりの中で、思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映している。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	気づきや会話などを個人記録に記載し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	医療連携体制を活かし、御本人や御家族様が安心して生活できるように支援している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、自主防災や市町村などと協力しながら行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同じ敷地内に看護師がいるので小さいことも、気軽に相談できており、医療機関との連携も密にとれている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における医療処置の対応など入居時や状態変化のある度に話している。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修に参加し、対応方法を身につけたり、事業所内でマニュアルを用いての勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会のメンバーに、キセキレイの里の防災委員長を加え、民生員から防災についての助言や、部落長と情報交換を行い、協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て、緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域住民参加型の防災訓練にも参加している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人全体でプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないように話し合い、徹底を図っている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど自己決定を大切にケアを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買物や散歩など個別対応し、入居者様の希望に沿うように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の希望により、化粧品を一緒に買いに行ったり、美容師の資格を持ったボランティアの方による散髪もできるように支援している。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>近所や入居者様の友人からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで、食事を楽しんでいる。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない方には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談し食の支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアや、嚥下体操などし、ケアに努めている。必要時は、言語聴覚士にも相談して支援している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>認知症高齢者が失禁することを問題とは捉えていない。ただし、できる限りトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心にも配慮しながらそっと寄り添うケアに心掛けている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や生活リハなどで体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけ、自然排泄ができるように取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>毎日入浴が楽しめるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れない時はお茶等を提供しながら、話を聴き、安心して眠れるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルを作成し、職員が副作用などについても理解し、服薬支援ができるように努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>できることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐に繋がるように支援している。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>地域の行事への参加やドライブをしたり、個々のニーズに即した外出の支援も行っている。また、遠方への外出は事前に計画し、バスを利用して出かけたりしている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣いを管理できる方も少数おり、洋服やパンなどの訪問販売を利用している。また、買物時は、本人が支払えるように施設の立て替え金を本人の財布に入れるなどして支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙が書ける方には、書いていただき、御家族様に郵送している。また、電話ができる方は、御家族様に連絡し、話ができるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様に家具の配置や飾り等のアドバイスをいただき、自分の家だという意識を持っていただけるよう配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や庭に椅子を置き、仲の良い方同士で過ごせるようにスペースを作り利用されている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御家族様の協力を得ながら、家具や寝具類、写真等を持ってきていただき、本人の好みに応じて居室に飾り、居心地のよさに配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全確保しながら自立した生活が送れるように環境など整えている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				